

(様式1)

令和元年度 北広島市立大曲東小学校 自己評価及び学校関係者評価書及び報告書

資料1

作成日	令和2年2月13日
校長名	菅原 聡

1. 学校の教育目標

<p>【大曲地区目指す子ども像】 豊かな心で 元気なあいさつ 自ら考え 進んで学ぶ 大志をいだき 未来をひらく 大曲の子ども 「かしこく ただしく ねばり強く たくましく」</p> <p>【大曲東小学校】 「心ゆたかに 未来をひらく 東小の子」</p> <p>【すすんで学ぶ子(知)】 【仲よく助け合う子(情)】 【ねばり強くやりとげる子(意)】 【明るく元気な子(体)】</p>
--

2. 学校経営方針

<p>①義務教育9か年を1つのくりとする教育活動の実践で、子どもにとって価値のある教育活動を展開する。</p> <p>②2小1中の、校舎分離型の形態を踏まえ、意識し、生かしながら小中一貫教育を推進する。</p> <p>③「中学校区経営方針」に基づき3小中学校が学校経営を行う。</p> <p>④小中一貫教育に向けた同一歩調を確実なものとするために、小小連携の推進をその基盤とする。</p> <p>⑤一方で、3小中学校ごとの教育環境(「ひと」「もの」等)に配慮し、各学校の教育活動も想定するが、他2校の了解・確認を取るものとする。</p> <p>⑥中学校区の一体となった教育活動を子どもはもとより、保護者・地域の人々に情報発信・啓発し、その成果を公開することで、さらなる教育効果の高まりにつなげる。</p> <p>⑦北広島市小中一貫教育の2年目であることを十分に意識し、先進的に取り組む。</p> <p>⑧RPDCAの手法で、短期・中期・長期の検証を行い、見直しをもってさらなる改善に努める。</p> <p>⑨「働き方改革」の趣旨を十分にふまえた経営に努力する。</p>
--

3. 本年度の重点

<p>『小中一貫教育を手段とした生き(続け)る力のさらなる育成』～日常生活の中で生かせる教科の力の育成～</p> <p>①-i 確かな学力を身につける教育活動の推進</p> <p>①-ii 成果をめざした研究</p> <p>② 豊かな心を育む教育活動の推進</p> <p>③ 健康・安全な生活、体力を育む教育活動の推進</p> <p>④ 積極的な生徒指導の推進及び充実</p> <p>⑤ 「生活・学力・豊かな心」「学校組織力」の向上につなげる研修活動の充実</p> <p>⑥ 校舎内・外の教育環境整備の充実</p> <p>⑦ 家庭や地域との協力体制づくりの推進</p>
--

4. 自己評価・学校関係者評価の結果

評価項目		自己評価		学校関係者評価結果及び意見	
大項目	小項目	取り組み状況と成果・課題	評価 内容が入ってくるため、子ども		
1	学校経営 教育課程 (重点目標)	<p>・中間評価、年度末評価、その他アンケート等を活用してマネジメントサイクルを確立し、経営の重点を教育活動の中に生かすことができた。</p> <p>・職員の協働体制のもと、家庭・地域の協力を得ながら学校組織を機能させることができた。</p> <p>・地域人材の活用で充実した教育活動を展開することができた。</p>	3.7	<p>・大曲中学校区CSを踏まえ、家庭・地域との連携をさらに深め、社会に開かれた教育課程を推進していく。</p> <p>・大曲中学校区小中一貫教育の目指す子ども像に向けた取組を進化させるため、今後も3校で協力していく。</p>	<p>・学校のチームワークがよいのが一番である。先生方がいきいきと元気で児童の指導に当たれるよう、管理職、職員一丸となって取り組んでほしい。</p>
2	学習指導 (自ら学び)	<p>・校内研究のテーマを「主体的・対話的で深い学び」とし、学校全体で新学習指導要領を踏まえた研修を深めていくことができた。</p> <p>・諸調査結果をもとに授業改善を図り、外国語や理科の専科授業を充実させてきた。</p>	3.8	<p>・9年間の学びの積み上げを意識し、身につけさせたい資質・能力を明確にした授業改善に力を入れる。</p> <p>・確実に学力向上が図れるよう、指導方法や指導形態の工夫をしていく。</p>	<p>・プログラミング教育や、外国語、道徳科等、新しい教育内容が入ってくるため、子どもたちのために社会で通用する能力の育成を図ってほしい。</p>
3	生徒指導 道徳教育 (心豊かに)	<p>・大曲地区3校で、大曲スタンダード(あいさつ へんじ りつよう ことば)の定着状況が図られ、児童の主体的な学びに寄与したか。</p> <p>【児童会活動】 児童が主体となった取組をとおして、児童の自己肯定感や自己有用感を高めることができたか。</p> <p>【道徳教育】 考え、議論する道徳科の時間の充実が図られ、全学級で授業交流や授業公開ができたか。</p>	3.6	<p>・きまりを守ることへの指導の徹底を今後も継続していく。</p> <p>・今後も児童が主体的に企画、推進できる児童会活動を充実させ、より多くの児童が成功体験を積み重ねることができるようにしていく。</p> <p>・教育活動全体を通じた道徳教育と、考え、議論する道徳科の授業改善について、全教職員での研修を継続していく。</p>	<p>・子どもたちの挨拶はよくなってきている。地域で子どもたちに声をかけられるような関係づくりがこれからは必要になってくると考える。</p>

4	健康・ 安全教育 (たくましく)	【健康安全指導】 家庭と連携した健康・安全に関する指導の充実が図られたか。 【体力・運動能力の向上】 全学年における新体力テストの実施とその結果を基にした適切な方策がなされたか。	・保護者や地域の方々の協力を得て、朝の登下校の安全指導を行うことができた。 ・ちよいスポ週間でホールに運動器具を設置したり、体育委員会や役員会の企画で体を動かす遊びをしたりなど、体力の向上を図る自主的な取組を行った。	3.8	・保護者・地域と連携した安全指導を継続していく。 ・新体力テストの結果を受け、課題となっている部分への取組を充実させていく。 ・体力向上について家庭への啓蒙活動を強化していく。	・スキー学習の実施について、少雪で実施できたかどうか危ぶまれたが、実施できたと聞いて安心した。今後も児童の体力向上に努めてほしい。
5	特別支援教育	【特別支援教育】 支援を要する児童の情報が共有され、支援計画や指導計画により適切な支援がされたか。	・支援を要する児童の情報共有を密にし、適宜支援体制を見直しながら取り組んできた。 ・個別の教育支援計画や個別の指導計画の活用の仕方について課題が残っている。	3.1	・特別支援コーディネーターが中心となって、今後も速やかに情報共有ができるようにしていく。 ・諸計画の活用方法について工夫し、支援に生かすようにしていく。	・不登校の児童も少数だがいると聞き、他機関と連携して取り組んでいるのは重要なことだと考える。今後も、児童の実態に合わせた指導に努めてほしい。
6	小中一貫教育	【小中一貫教育】 ・乗り入れ授業や児童生徒の交流など、小中接続がさらに深まり成果が出ているか。 ・教科部会、各所属部会における取組に積極的に関与したか。 ・幼保小中連携の取組が推進されたか。 【コミュニティ・スクール】 運営協議会設立に向けて、学校や地域における理解は深まってきたか。	・新たに理科の乗り入れ授業に取り組んだり、各教科ごとに新学習指導要領実施に向けた指導の重点化を図ったりして、大曲中学校区として小中一貫教育を深化させることができた。 ・幼保との連携や引き継ぎを充実させている。 ・CS実施に向け、大曲中学校区で運営協議会設立への準備を進めてきた。	3.6	・3校で組織した専門部会の授業交流等を通して「15の春に責任をもつ」を合い言葉に、新学習指導要領実施を踏まえた授業改善を継続していく。 ・乗り入れ授業等、小中一貫教育の取組について、保護者や地域への発信・公開を充実させる。 ・CSを本格実施し、取組を検証しながら進めていく。	・中学校の乗入授業や吹奏楽部の演奏会、中学校のスキー学習講師に小学校教諭派遣、中学校の夏休みの学習会に小学校教諭派遣など、確実に小中連携の取組が見られる。今後はCSの取組も併せて、児童・生徒の育成を進めてほしい。
7	学校設定項目 (特色ある教育活動)	【規範意識の向上】 ・いじめ・不登校の未然防止と、規範意識の向上を目指した生徒指導の充実が図られたか。 【支持的風土】 ・学級経営力を高め、支持的風土のある学年・学級経営を進めることができたか。 【授業改善】 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることができたか。	・年4回の児童アンケートを実施し、生徒指導担当を中心に担任との情報共有を日常的に行い、いじめの早期発見や未然防止に努めた。 ・支持的風土のある学年・学級経営を進め、児童の自尊感情を高めることができた。 ・教務、研究担当を中心に、全教職員で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることができた。	3.6	・規範意識の向上を目指した生徒指導の充実を継続しつつ、支持的風土のある学年・学級経営を進める。 ・いじめ・不登校の未然防止に、さらに力を入れていく。 ・校内研究において、様々な教科での授業改善に、全教職員で取り組んでいく。	・今後も児童の育成のため、学級経営の力を高め、支持的風土のある学級や学校を作っていくことが、児童の育成のカギとなると考えるため、今後も継続して取組を進めてほしい。

5. 今後の方向性についての校長の所見

学校評議員・学校関係者評価委員の皆様には、本校の学校教育活動や学校・地域での児童の様子について、貴重なご意見、ご助言をいただいた。これらご意見を真摯に受けとめると共に、今年度の学校経営を振り返り、成果と課題を明らかにして次年度の学校経営に生かしていきたいと考える。

令和2年度の重点教育目標を、「主体的・対話的で深い学び」の実現(かしこく)に向けた授業改善とあきらめずに挑戦する子どもの育成(ねばり強く)～「認める・褒める・励ます」指導と支持的風土のある学年・学級経営を基盤として～に設定する。

「15歳の春に責任を持つ」を合言葉に、本校でしっかりと育んだ子どもたちを大曲中学校へと送り出していかななくてはならない。義務教育9年間を通して、知徳体の調和の取れた「生きる力」を育む小中一貫教育の進化が重要である。難しいことでもあきらめずに、失敗を恐れずに挑戦する心をはぐくみ、自分にはよいところがあると実感して、将来の夢や目標のもてる子どもを育てていきたいと考える。子どもたちが「幸せを感じ、学校に行くのが楽しい」と思えるような、「笑顔いっぱい」、「あいさついっぱい」、「楽しさいっぱい」の学校をつくっていく。